



昭和の半ばに高校生だった私は出前授業というものを受けた経験がありません。大学は入ってみるまで何をやるかわからない所でしたし、学問のイメージは時として大きく実態と異なっていました。友人の中にはどの大学でどんなことが学べるのかしっかりと調べている人もいましたが、少数派だったように思います。大学入学以前に自分が持っていた心理学へのイメージときたら、「精神分析」と「多重人格」でしたから、いかに偏っていたかわかるうというものでしょう。

出前授業という、そんな自分の高校時代を思い出し、どうやったら今現在進行中の心理学を少しでもわかってもらえるか、そして面白いと思ってもらえるか、そのことを常に考えます。ひとくちに出前授業といってもいろいろありますが、大学のオープンキャンパスでの専攻紹介であれ、高校から依頼されて文字通り「出前」で入門的な授業を行うのであれ、心理学ではエビデンスに基づいて現象を考えていくという姿勢をまずわかってもらうことにしています。「こうではないか」と仮説を立て、データでそれを実証もしくは反証していくという流れを実例を用いながら説明すると、必ず「そういうものだ」と初めて知った」という感想をいただきます。その後心理学全般のさまざまなトピックスの中から、その時に応じて聴衆の興味や関心を引きそうな内容を選び、簡単な実験や質問紙などを体験しながら心理学を垣間見てもらうというのがこれまでの私の出前授業のスタイルでした。発達心理学が専門ではありませんが、選ぶ

トピックスはどちらかというと教育領域に引きつけたものが多く、受験勉強と関連づけた記憶の研究の紹介や、友人関係を例に挙げてのグループ・ダイナミクス話題などを取り上げていました。所属が教員養成大学で、「我が大学」の宣伝も兼ねているので、どうしても教育領域に近くなるようです。

高校生のための心理学講座

2012年に日本心理学会が実施した「高校生のための心理学講座」は、全国で一斉に、心理学の各領域について講座を開くというものでした。この講座では、いつも自分が行っているものとは違い、最初に「心理学とは」という講義が別に設定されています。ということは、実証科学だの、いろいろな領域があつてこんなところにも応用されているだのといった内容はすつとばしてかまわないのです。発達という領域の中身をどんなふうに紹介しようか考えましたが、対象は高校生ですので、やはり自分自身のことか人間関係が最も関心の強い部分ではないかと思いました。それで定番中の定番、アイデンティティを取り上げることにしました。もちろん、臨床領域や教育心理学の領域をご担当になる先生方の内容とかぶらないことを確認した上です。

まず、人間が生まれる前から死ぬまでの様相や変化を扱うのが発達心理学であること、人の一生をいくつかの段階に分けて考えるのが一般的であることをざっと説明します。乳児期、幼児期、児童期、青年期……。発達心理学は一生を扱いますから、本当はこの後に成人期以降の



Profile — 戸田まり

1982年、東京女子大学文理学部心理学科卒業。1984年、東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1987年、同博士課程単位取得退学。同年に北海道教育大学教育学部札幌校助手に就任し、講師、助教授を経て、2010年より現職。専門は発達心理学。主な著書は『グラフィック性格心理学』（共著、サイエンス社）、『児童心理学（心理学のポイント・シリーズ）』（共編著、学文社）など。

段階が続きますが、聞き手は高校生がメイン、あまり遠い未来の内容を取り上げてピンとこないでしょう。心理学に興味を持ってもらうのが出前授業の目的ですから、あえて彼らの今いる「青年期」までで止めました。生涯発達心理学の立場からすると、少々誤解を与えてしまったかもしれません。

発達段階とは、人間の一生の中で特定の様相を持つある時期を区分したもので、その前後の時期とは異なる特徴を示します。青年期であれば身体的・能力的には成人に近くなり、それ以前の児童期とは量的にも質的にも大きく異なります。また社会の中での位置を考えると、能力そのものは成人と遜色ないものの、未成年であったり、社会人ではないことから一人前として扱われないのが普通です。そうした能力と扱われ方のギャップが青年期を特徴づけているともいえます。心理学に興味を持つ人はえてして自分の内面に 관심이向きがちかと思いますが、身体的な成長のために自己イメージが大きく変わるだけでなく、将来の進路を見据えて自分の適性を考えさせられるこの時期は、誰にとっても「自分とは何か」を考えやすい時期ともいえます。

このような青年期の特徴を説明した後、今回は20答法を改変した簡単な文章完成法を用いて「自分から見た私は……」「他人から見た私は……」など八つの欄を埋めてもらいました。その内容を、身体面（容姿や身体能力など）、対人社会面（所属や他者との関係など）、心理面（性格や感情など）におおざっぱに分類し、今の自分がどのような側面を中心に自己をとらえているかを自覚してみてくださいと伝えました。外見のことばかり書いていた、自分の性格

ばかり気にしていて他者から見える他の面には意識が向いていなかったなど、いろいろな気づきがあれば面白いです。これは標準化されたテストでも何でもなく、データとして使用するにははなはだ不十分ですが、書いた日記を読み返すように自分を振り返ってみるには簡単で良い方法かと思い、少し前から使っています。



今後の課題

実は高校で履修する「倫理」の中で、青年期の自己形成という内容は扱われています。センター試験にアイデンティティについての問題が出ることもあるほどです。「倫理」は必ずしもすべての高校生が履修するとは限りませんが、もしかしたら「あれ、社会科の時間の繰り返しだ」という感想を持たれたかもしれません。それを考えると、今回のトピックス選定は課題が残ります。また、研究の面白さや新しい発見をしたときの喜び、醍醐味といった部分はあまり伝えることができませんでした。大学に進学するということは「学ぶ」ことから「問う」ことへの転換だと聞いたことがあります。そんなワクワクする気持ちも伝えられるような出前授業を、次回はめざしています。